こしこえ

十

別13
25
28

別圖
23

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

こしこえ

を預かり判官(はんがん)殿(どの)より平家(へいけ)を三とせ三月よせあまひけ三種(じゅ)の神器(しんき)をゆへなく二ついとゝ寄(よ)りあはさる由申(もうす)剰(あまつさえ)平家の大臣殿父子(ふし)いけとりにして天下乃(の)政(まつりごと)をとりおこなひそまの門(かど)ら投義経(なげよしつね)を見(み)そこなひ弓矢(ゆみや)の大事(だいじ)うみとかめぬ人こそなりけるを時(とき)のさうくそうしゝやさ迄(まで)をうらみ奉(たてまつ)らいはん平家よりもいとゝ大臣殿父子こそよりやいかん

国立国会図書館

梗概

要撰

よの中せはしなかそまいりうは事るまてもの
一ゆきは勧歌(そうてき)よいまてのかうさま
きた関東の軟物(しわもの)みくらひらく家の面目
うら為さうーをそうしてやまうりけまた
そとえいらんはーくてを織ること大長面
みーとうすそいそれにしめてうつし
兼ねとやて三百弱(そ)この中
北町そくみまう為くのはいとう面をや

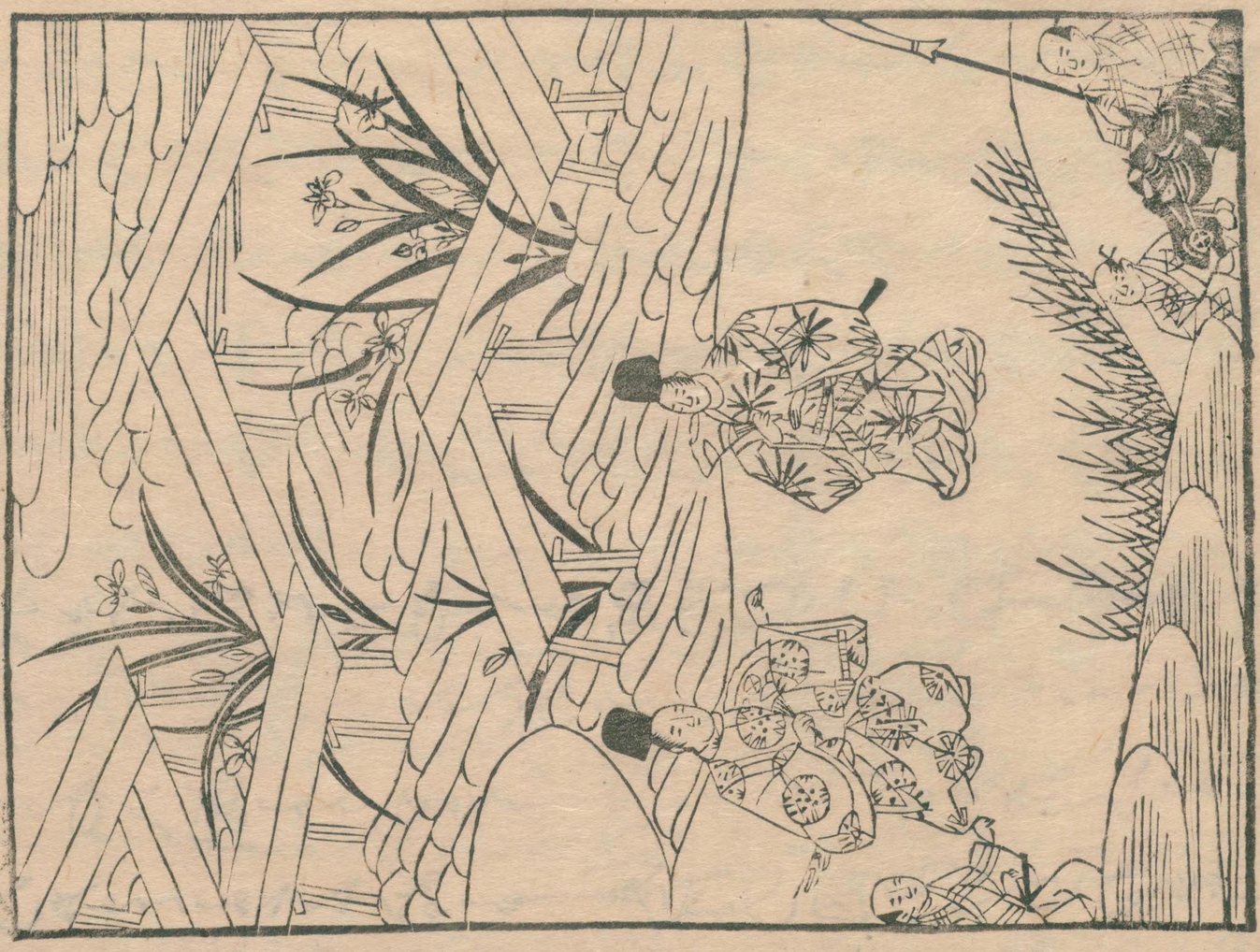
国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

すりそり山もんそさそ
あちのうへ川さそもろ〳〵わ
もふこそりふそのせき屋のいこゑ日
月まそそや雨そろ〳〵ろぬれもぬくを打
をきそそやくあ川たふ浮ふうの松林と
きいうけまくをそろ〳〵けるや天照太神ぬそ
ひそ川まそおもろ〳〵まの夜をりり月三ぬ京とは
やろ〳〵えをよそい日本月三ぬ浦ろ〳〵まそ
海ますとを時こそおかいとの判官よ浴り
浴へ〳〵まるみそろ〳〵ろよりそ屋

のなこよそそぬもし京河の岡ふいりねまそ
もや八橋よろるとろ一のふせいを見浴ふよい
さとふ祢梅ろえんあうの裏をあろてろうあ
ふそそ京とじやくろ時伐ひへてひろ宝ろ

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『にしこえ』　請求記号　本別13-28
ガラス使用

さて故郷をさせ住南の海上はるくと
てきらゐをるのをきゝゆけば人家さ
みはるなるに松ふく風のをとのをきゝも
のゝうらひそうちなるめりかゝる大
井川ゆをはきゝ給ふ大将をはじめ我よう
思ひいでくなくなりぬ
なる里もみ乃高松(たかまつ)と見えわたりめる君
ろいろ雲井よりもろくなみだおちてみゆ
東面へなるくに見ゆるまのあり井松
まさかさしてむまいりかをめのあるよ
ふうのこゝろさへとひさうをうやまふく
やおもり里をん大将なみだ
けくかくもろ
あかちうさをおりし
月いうさし夜よふをけ
はる有境門おゝこと
我るまや田ひみをゆる
むものさそうのをみ

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』　請求記号　本別13-28

ガラス使用

きけのうれなめおろこひをそくめとれ富と
うらなるあすゑいさとをのしめくうはく
判官ひさしをめされ案内をそうまろへ
ふれのいこまとそんまろなるむをやくを立
鑓倉へおんまのい城中ねーかの儀むも
ろくねこういそいせの三郎よりのりをそん
てあんまのい城中されたりらいてう雪をまく
掛そひのさろまそくりをうやめく
たいさよ このまくくとはいんさうれ申
まそ見参とろ見ふ参ろをんさひとそう

城ぢくらせようひの津ふ里をさいそくを
めけうせようらうんまうをそろへはく意け
いそけとねりせまろ権亮兼くをろとあくへ
て活おをさくあく務のうらよ田やうあさ
ますやはさくま鑓倉ますーはさんまりして
あをそうたくーきたこのむ称まそをこるは
君乃所をろひとそうねんまんと死よ
うりくうさろのいそ強これくえ
みひさいこさまてゆいのさまそそくまん
事いうこうひえおあろこそのまーあくさ

国立国会図書館　タイトル『こしごえ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『こしごえ』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

いろうこころをこころをくれりんへきうと
ゆんむの峯うあみさうめうまのて世我
私らんとくむよ風沙の関東み暑り
てはあをおみはきけいのけいことまーく
てこうこそいおさまりめそたうをきう
一そんよ関東よ法あをこくい天下を祢うあ
こやうんお朝守石まてきうてあうるは
さおひう我はうり大臣をうけく
きけいをはこやこへのうせようちうう
れおをまうり立去犯の

はけ法分さうこへうあえ祢いとのよる
うけとりく義理をはおへのうせやまさんへ
さおひく義くあのそまあまい一大事は彼
うみとはそむすまとそをきこのはきとあうる
ようありとうちはまさうもれちゆくよまり
ひようくとやあくうきこめさ
まそいやくそさうまとおの法通事とも
祢うこをまいの祢おうちうそやと祢うく
かりおうまくへをてうちりくよう
うをとそひおあひそのひおんおさんせむ

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『こしごえ』　請求記号 本別13-28

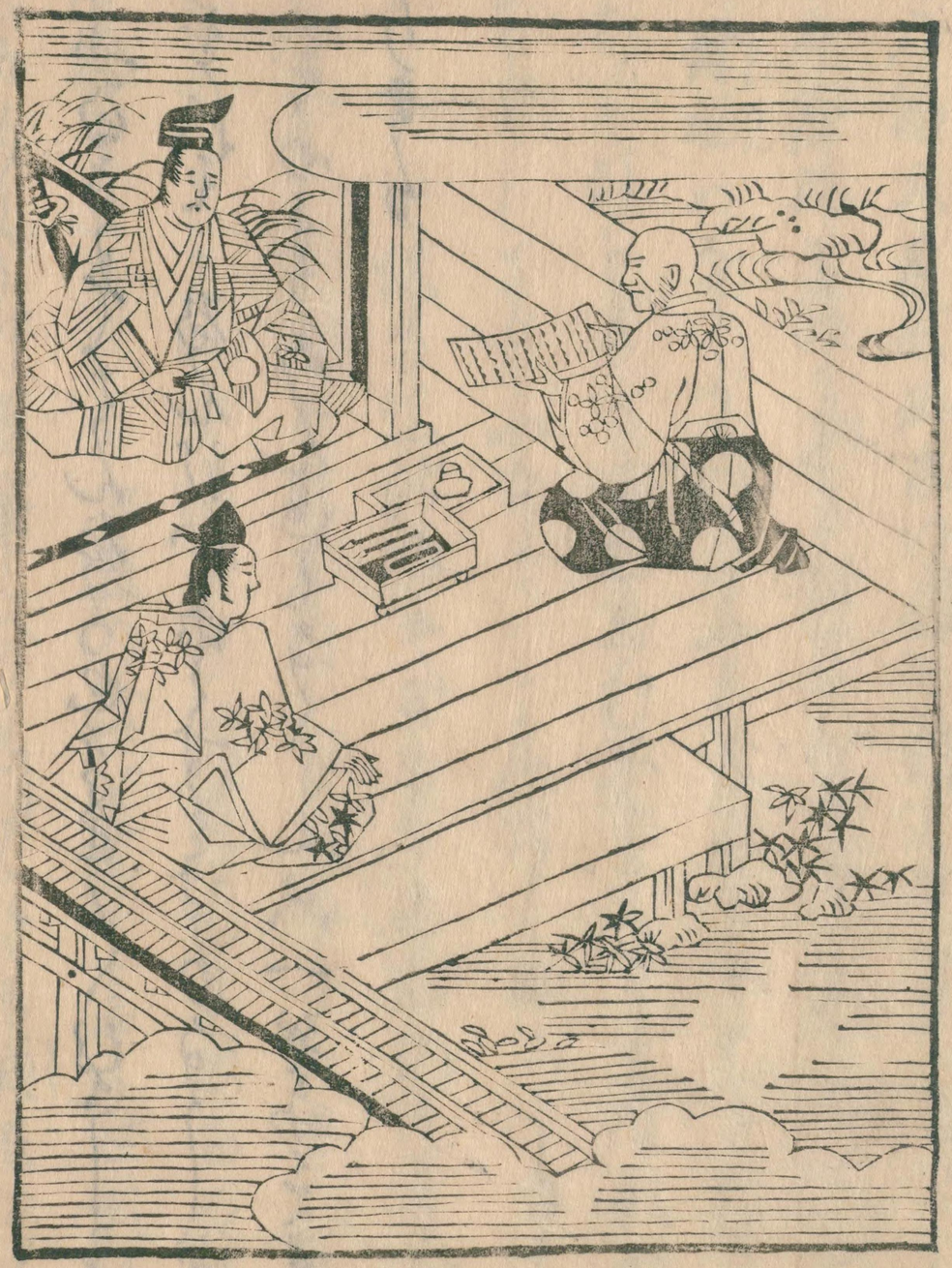
ガラス使用

乃大納言なよりけるそうり
そう義理よりふさうむ一文
乃尊面いるそうけるそ
もうけるさんまる
ようさふう
よ一を伝る伝秋乃
ありさまれ光
よよりくれりさけいむ秋んよりふ
武義そくそよ一通の
乃伝めようけ西事

ふるさまそもん角
伝きを　角んけい義
りそあさうめん
なりまる

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』　請求記号 本別13-28

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『こしごえ』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

おんすゝきむしやのまろふ袋そこさま
うまろうへたをへられそいなのみる
みおとりの数日ををくる　ひとさみおろく
おんうん袋をいしやすむところふくろう
うへのきたくをそふ高望さうまりてむの
きふ袋うろうねみせんせのあうりんうん
まろう　ひるすきうるひてうこそうふそん
まいさいうんろまいい袋れ人の為をれ
ひうんをや開りうん　いまの人のあひまん
をうまられむや変あろうきや袋　ろ面

うまいう袋をうとうへ法羽弁ろ
ふ袋父母ようけろくうの時袋為すて
こうのうとのは他界(たかい)のなみなこと成うそ
ふのそあろういうさう重大れ国宇面れ
ありふをもむきしまりこのうこと一月ノ
時(ど)袋乃里ひよ住せたうひるれのうをな
すていへと京都のけいろいろれ君袋
ふをろぐやうし多を重ろふくみのろし為
重国袋すこうそし去(どう)民面性(さう)ふみふろし
せうまろふうをのうまいうまろうしまん

ものくして平家の一ぞくはのこりすくなう
上洛せしもむろまちあたりにみをそよせ
里くの人々平氏かろかさんうめよりうち
かくそありし岩石よ後ろよむちをうちき
乃れあよいのろをうしなりん幸をうり
みをみる時いまんくとおう海中のうへ
して風波乃なん故ぎ男を海底うみ
めん変をいてきのくかまくらへけいくれぬぎ
とふかくおろのこるまりんちう故まりん
とうせん故をうとりへといまう
もて出ふよりかう他事をる剣をよう
み位乃射よふみんのてう商家のちうちよく
物事うあまよおうとりへといまう
う通へ姫うふしてうけきせんあり仏神
まみにあうすうたうあまうう
よりく法寺およしやの半生かうんのう
をうりく野んをえうそむせめむ糸故日本国
中乃大小の神祇めうう故おろうう
報通の超清文を書進ぎをりへとる故ありく

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

ゆうめんの一ぴきも非ざる
うけ給ふるところのむとく
実(じつ)に広大乃おひをあふぎ
奉うみんすなつ一ひきい
あやまりるきむ務をゆう
あけかくしやくせんのよけい
むるくろいろをお孫すみく
年来のまりひ我ひとき一期のあんらいを
とくしめせんま事を
我あんをるふ家ふたの図後色みてさろろ立

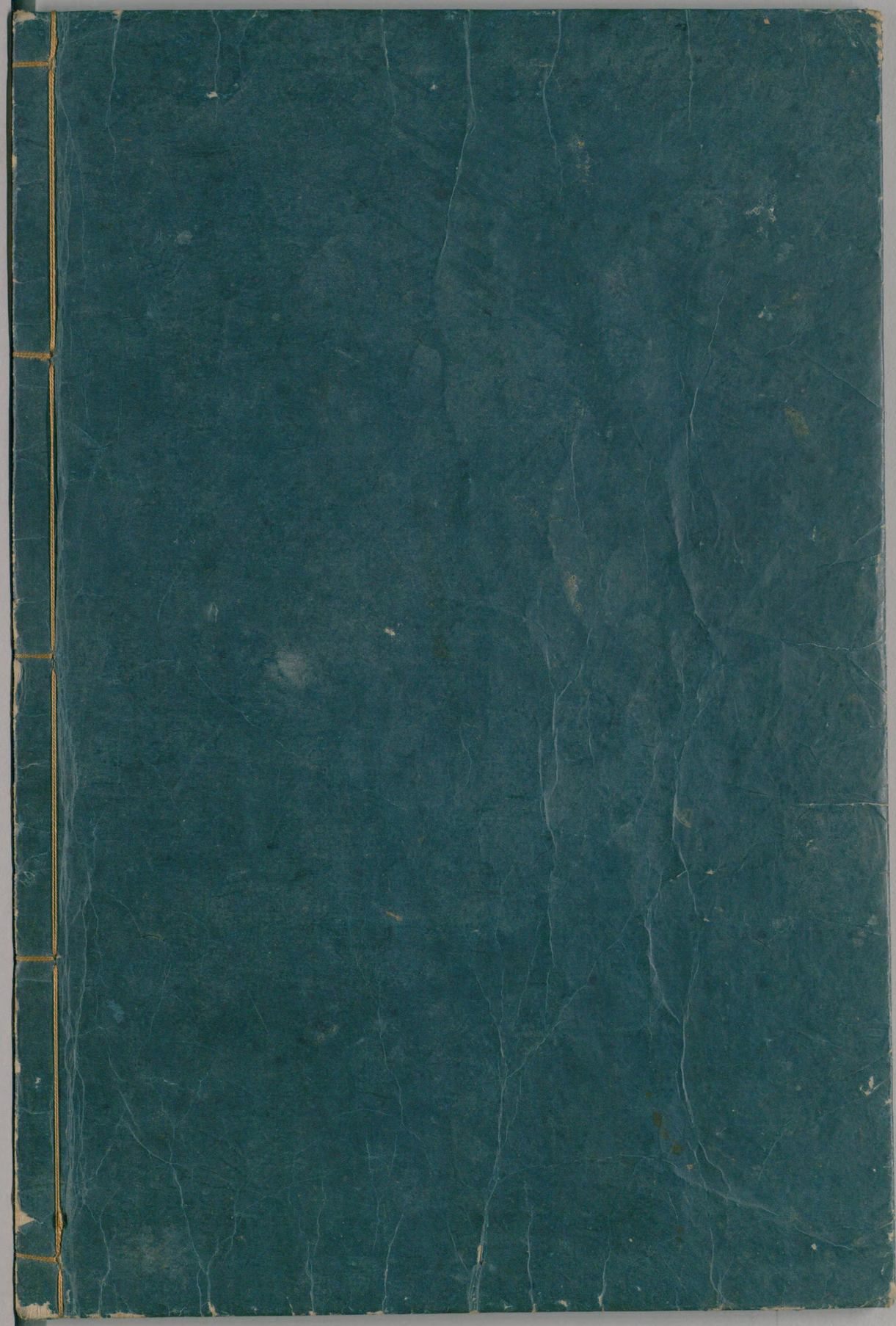
のいうすまく義理けいしのなるようよ
らんをてをすまぢひまをうかひおをねく
よ一ぢをうこむとやかまを打くかるみい
さまぢ教教のはてふ付くそまろうまく
下云し教朝すちる付そ
さんそといるたろそのいまる紀そ
るりみんくのぢされうく
もろを無実のぢこのうこうひをいまくせよ
理いちんこんのようひ水(ひ)をみ法人れあけ
きたりまんまうる一ちんのあよ理をまみ

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

別13
25
28

を先車のうへうへすべていこうしやをそ
まとをるせりうこすれかるまたをを座すし
あよとを殿さまよかまうよりの月座くらん
ゆそうりうし一人小法師のきよさまひ祇園
うへられむよまいそきまを鴨かさいまうせう
迷法師乃なけき祇座あちうきんのいうことを
あり多人城堵諫臣(ぼうそうそうかんしん)元暦(げんりゃく)二年六月廿日
進上周防(すおう)のうのへ義遵(ぎじゅん)と書たり
一枚奏うひらせのうへうちそうち
けま

国立国会図書館　タイトル『こしこえ』 請求記号 本別13-28
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『こしごえ』　請求記号　本別13-28

ガラス使用